

# 環境活動レポート

## 平成 17 年度

福島印刷株式会社 本社・工場

# 「福島印刷株式会社」環境方針

## 基本理念

福島印刷株式会社は、企業活動と地球環境の調和を目指し、資源の有効活用と環境汚染の予防に取り組んでまいります。地球環境の保全が人類共通の重要課題であることを認識して、「循環」「共生」「参加」を基調とした持続的発展が可能な社会の実現に貢献します。

## 行動指針

当社は、印刷業としての特性を活かし、直接的及び間接的な環境影響を配慮するとともに、企業活動を通じて顧客への積極的な情報提供、グリーン購入への積極的参加等を行い、循環型社会形成への貢献に向けて「エネルギーに対する基準」「廃棄物に対する基準」「有害物質に対する基準」を作成し、全社をあげて環境保全活動を展開してまいります。

### 1. 循環型社会形成への貢献

#### (1) エネルギーに対する取り組み

地球資源の保護と地球温暖化防止のため、電力消費の節減等省エネルギーに努めます。

#### (2) 廃棄物に対する取り組み

リデュース（廃棄物の発生抑制）・リユース（材料等の再使用）・リサイクル（材料等の再生利用）の徹底に取り組み、資源の有効活用を促進し、可能なかぎり廃棄物の減少に努めます。なお、循環的な資源利用及び処分の順位は、①再利用、②再生利用、③熱回収、④処分とします。

#### (3) 有害物質に対する取り組み

生産過程で利用する有機溶剤など環境影響の大きい物質の使用料の削減、適正管理を推進します。また、物品の購入にあたっては環境負荷の少ない製品等を積極的に選択し、グリーン調達を進めます。

### 2. 法の遵守と環境改善活動への参加

「リサイクル法」「廃棄物処理法」「PRTR法」「グリーン購入法」等、環境に関連する法規制を遵守いたします。

### 3. 環境保全活動の目的

#### (1) コストダウン

当社は、環境保全活動を通して、実効のあるコストダウンを実践します。

#### (2) 製品開発計画

当社は、顧客ニーズに対応した環境にやさしい製品開発活動を展開し、紙ベース製品からデータ加工製品への移行に取り組み、製品の差別化を図ります。

### 4. 環境目的及び目標の設定と継続的改善

環境方針に基づき環境目的、目標を定め、これを実行し見直すことにより、継続的改善を図ります。

### 5. 環境方針の周知と公開

全従業員に対し環境教育等の啓発活動を行い、環境方針を周知徹底するほか、当社のホームページ等で一般公開を行い、当社の環境に対する姿勢を広く内外に示します。

平成 17 年 11 月 10 日

福島印刷株式会社

代表取締役 福島 理夫

平成 17 年 11 月 10 日

## 1. 事業活動の概要

### (1) 事業者名及び代表者名

福島印刷株式会社 本社・工場  
代表取締役社長 福島 理夫

### (2) 所在地

石川県金沢市佐奇森町ル6番地

### (3) 環境保全関係の責任者及び担当者、組織及び連絡先

責任者	取締役総務部長	古林 孝之
担当者	総務部総務課	音 正士
担当部署	安全衛生環境委員会	
連絡先	電話	076-267-5111
	FAX	076-267-8065
	E-mail	soumu@fuku.co.jp

### (4) 事業の内容

#### ・主な事業目的

帳票類等事務用印刷物の製造、販売  
販売・広報・業務用印刷物の企画、制作および製造、販売  
事務用印刷物、販売・広報・業務用印刷物における情報処理事務の受託  
マルチメディア情報の企画、制作およびその販売  
各種情報システムの開発、設計、制作およびその販売  
データベースの構築、運用管理およびその販売

#### ・主な原材料

当社は、主に印刷物の製造及び販売を業務としており、原材料として、用紙、段ボールケース、印刷インキ、アルミ板を使用している。

### (5) 事業の規模

製品出荷額	56 億円	(平成 17 年度)
紙購入量	4,099 t	
従業員数	361 名	
工場延べ床面積	21,673.67 m <sup>2</sup>	

### (6) 付加価値額

1 事業年度は毎年 8 月 21 日から翌月 8 月 20 日までの一年間とする。

付加価値額の年度別推移は次のとおりである。

平成 13 年 8 月期 (第 49 期 : 前基準年度)	付加価値額	3,130 百万円
平成 14 年 8 月期 (第 50 期)	付加価値額	3,008 百万円
平成 15 年 8 月期 (第 51 期)	付加価値額	2,889 百万円
平成 16 年 8 月期 (第 52 期 : 現基準年度)	付加価値額	3,008 百万円
平成 17 年 8 月期 (第 53 期)	付加価値額	3,060 百万円

## 2. 環境目標とその実績

### (1) 環境目標

受注環境の変化が激しいものの、当面は現状程度の生産量を見込んでおり、排出量の抑制を推進しながら事業展開を図っていく。当社の環境方針に基づき、以下の目標を掲げて環境活動に取り組んできた。

①二酸化炭素排出量（自動車を含む）／付加価値額	・・・・・・	毎年2%削減
②産業廃棄物排出量／付加価値額	・・・・・・	毎年1%削減
③紙類排出量／付加価値額	・・・・・・	毎年1%削減
④水使用量／付加価値額	・・・・・・	毎年1%削減

上記項目について平成16年度実績に対し、以降3年間削減活動を行う。

### (2) 環境への負荷の状況

平成16年度（平成15年8月21日～平成16年8月20日）実績数値（基準値）

#### ○二酸化炭素関連

項 目	使用量	二酸化炭素排出量
電気 (kw)	4,512,504	1,732,801
冷暖房用重油 (ℓ) (kg-CO2)	215,424	581,214
灯油その他 (ℓ) (kg-CO2)	90	228
ガソリン (ℓ) (kg-CO2)	38,553	90,947
軽油 (ℓ) (kg-CO2)	19,707	52,105

#### ○廃棄物排出量

項 目	排出量
紙類 (kg)	1,514,930
その他産業廃棄物 (kg)	93,680

#### ○水使用量

項 目	排出量
上水道 (m <sup>3</sup> )	5,089
地下水 (m <sup>3</sup> )	46,708

#### 平成16年度基準値

項 目	単 位	実績数値
二酸化炭素排出量	総量 (kg-CO <sub>2</sub> /年)	2,457,295
	付加価値当たり (kg-CO <sub>2</sub> /百万円)	816.83
紙類排出量	総量 (kg/年)	1,514,930
	付加価値当たり (kg/百万円)	503.63
その他産業廃棄物排出量	総量 (kg/年)	93,680
	付加価値当たり (kg/百万円)	31.14
水使用量	総使用量 (m <sup>3</sup> /年)	51,797
	付加価値当たり (m <sup>3</sup> /百万円)	17.22

(3)-1 二酸化炭素排出量の目標とその実績

二酸化炭素排出量については、付加価値額（製品出荷額から材料費、外注費等を除いたもの）による原単位を用い、以後毎年度2%削減する。

○使用量

項目	区分	平成17年度	平成18年度	平成19年度
電力 (kw)	目標	4,422,254	4,333,809	4,247,133
	実績	4,590,432		
冷暖房重油 (ℓ)	目標	211,115	206,892	202,754
	実績	202,508		
灯油その他 (ℓ)	目標	88	86	85
	実績	720		
自動車用ガソリン (ℓ)	目標	37,782	37,026	36,286
	実績	35,350		
自動車用軽油 (ℓ)	目標	19,313	18,927	18,548
	実績	16,847		

二酸化炭素排出量

項目	区分	平成17年度	平成18年度	平成19年度
電力 (kg-CO <sub>2</sub> /年)	目標	1,698,146	1,664,183	1,630,899
	実績	1,762,726		
冷暖房重油 (kg-CO <sub>2</sub> /年)	目標	593,076	581,214	569,589
	実績	546,367		
灯油 (kg-CO <sub>2</sub> /年)	目標	223	219	215
	実績	1,820		
自動車用ガソリン (kg-CO <sub>2</sub> /年)	目標	89,128	87,345	85,599
	実績	83,391		
自動車用軽油 (kg-CO <sub>2</sub> /年)	目標	51,063	50,042	49,040
	実績	44,543		
年間二酸化炭素排出量 (kg-CO <sub>2</sub> /年)	目標	2,431,636	2,383,003	2,335,342
	実績	2,438,847		
付加価値当たり排出量 (kg-CO <sub>2</sub> /百万円)	目標	800.49	784.48	768.79
	実績	794.65		

### (3)-2 廃棄物排出量の目標とその実績

廃棄物排出量については、付加価値額による原単位を用い、以後毎年度1%削減する。

#### ○紙類排出量

項目	区分	平成17年度	平成18年度	平成19年度
白上質紙 (kg/年)	目標	97,020	96,050	95,089
	実績	91,300		
段ボール (kg/年)	目標	57,915	57,336	56,762
	実績	66,860		
その他の紙 (kg/年)	目標	1,344,846	1,331,397	1,318,083
	実績	1,353,430		
紙類合計 (kg/年)	目標	1,499,781	1,484,783	1,469,935
	実績	1,511,590		
付加価値当たり排出量 (kg/百万円)	目標	498.59	493.61	488.67
	実績	493.98		

#### ○その他産業廃棄物排出量

その他産業廃棄物 (kg/年)	目標	92,743	91,815	90,898
	実績	92,510		
付加価値当たり排出量 (kg/百万円)	目標	30.83	30.52	30.21
	実績	30.23		

### (3)-3 水使用量の目標とその実績

水使用量については、付加価値額による原単位を用い、以後毎年度1%削減する。

上水道 (m <sup>3</sup> /年)	目標	5,089	5,038	4,987
	実績	7,984		
地下水 (m <sup>3</sup> /年)	目標	46,241	45,779	45,321
	実績	28,833		
水使用量合計 (m <sup>3</sup> /年)	目標	51,330	50,817	50,308
	実績	36,817		
付加価値当たり排出量 (m <sup>3</sup> /百万円)	目標	17.05	16.88	16.71
	実績	12.03		

## 3. 環境活動の取組結果の評価

### (1) 二酸化炭素排出量増減の主な理由

印刷設備、加工設備の増加に伴い、電力使用量が増加している。冷暖房重油、自動車用ガソリン・軽油はいずれも目標を下回ったものの、二酸化炭素排出量は目標量を超過した。しかしながら、付加価値額の増加に伴い付加価値当たり二酸化炭素排出量指標は0.7%下回り、かろうじて目標を達成することができた。自動車燃料については、ディーゼル車からガソリン車への移行、ハイブリッド車、低燃費車の導入を推進しており、その効果が出てきている。やはり今

後は、電力使用量が増加傾向にあるため、全社的に節電活動や夜間電力の有効活用をはかっていく。

## (2) 廃棄物排出量増減の主な理由

### ○紙類廃棄物

生産本部をあげて推進している「用紙歩留まり向上活動」は、まだ、排出量の大幅な削減までにはいたっていないが、ある程度、効果が出るようになってきた。また、社内会議のプロジェクト活用により、全社的に会議資料等が激減しており、社員の意識向上に役立っている。紙類廃棄物排出量は若干目標を上回ったものの、付加価値指標は0.9%目標を下回り達成した。今後も「用紙歩留まり向上活動」を中心に据えて、設計歩留まり、製造歩留まりの達成に向けて挑戦し続けていく。

### ○その他産業廃棄物

今年度途中に産業廃棄物の再資源化及びリサイクルを推進するため、廃プラスチック、廃油の処理業者を変更した。そのため排出量については若干前年と異なる基準を用いているため、単純比較はできない状況にあるが、付加価値指標は目標を1.9%下回り、ほぼ目標を達成できたと評価をしている。

## (3) 水使用量増減の主な理由

水使用量については、今年度より節減調査対象となった。オフセット印刷設備等の増加等により、上水道使用量が急増している。一方、地下水使用量は目標量を大幅に下回った。これは融雪装置や散水用に使用しているため、天候等に左右されやすいためであり、単に自然現象がプラスに働いただけと分析している。水使用量合計では、目標を14,513 m<sup>3</sup>下回る余裕の目標達成となった。しかしながら、今年度からの取り組みということもあり、活動内容についても不満が残る状況で、今後、節水活動を全社に浸透することでより大きな削減効果を追求していく。

## 4. 主要な環境活動計画の内容

### (1) 二酸化炭素排出量の削減

#### □電力の抑制

- ・昼休みの照明減灯
- ・昼休みのパソコンモニター電源OFF
- ・倉庫、トイレ使用時以外の照明禁止
- ・40W蛍光灯を36Wへ変更
- ・エレベータの使用限定（お客様と荷物のみ）
- ・工場の設備稼働率向上活動（運転時間の圧縮）
- ・蛍光灯の安定器取り替えによる電力使用量削減

#### □自動車燃料の効率化

- ・常に安全運転と燃費向上を意識する
- ・低公害、燃費を考慮した社有車の車種選定

### (2) 廃棄物排出量の削減

#### □産業廃棄物の削減

- ・段ボールケースのホットメルト糊化（ワイヤー→糊）

- ・インキ缶、ブリキ缶の分別排出
- ・飲料缶、ペットボトルの分別回収の徹底
- ・埋め立てゴミの燃料化検討
- ・トナーカートリッジのリサイクル推進

□グリーン購入の推進

- ・グリーン調達の設定と製品情報の収集
- ・コピー用紙、包装紙、名刺等の再生紙化
- ・事務機器の選定にはエコマーク商品を検討する

(3) 紙類排出量の削減

□工場関連

- ・ジャストインチサイズの採用
- ・用紙の歩留まり向上活動の推進
- ・不要紙の分別排出
- ・用紙の取りムダが少ない仕様及び用紙の選定
- ・製版、刷版工程のデジタル化の推進
- ・校正等出し直し、印刷刷り直しトラブルの防止
- ・エコマーク商品の開発
- ・過剰な包装、ケース詰めは無駄削減

□営業関連

- ・表面加工（フィルム貼り）の必要性考慮
- ・データ入稿の促進
- ・紙製品からデータ加工製品への移行促進
- ・お客様への再生紙利用提案
- ・お客様へのデータ入稿、完全原稿等の助言・提案
- ・お客様からの段ボールケースの引き取り

□事務所関連

- ・事務所に紙ゴミ分別回収用くずかごの設置
- ・コピー用紙の二次利用推進（裏面再利用、両面コピー、メモ利用）
- ・梱包材の再利用
- ・コピー用紙、包装紙、名刺等社内消耗品の再生紙化
- ・社内通達文書のメール活用
- ・会議にプロジェクタ活用

(4) 水使用量の削減

- ・日常作業で節水を呼びかける。
- ・漏水に気づいたら、速やかに修理を行う。
- ・月1回水漏れ箇所の点検を行う。

(5) 有害物質の管理・規制

- ・P R T R法上（\*1）指定化学物質の使用禁止、MSDS等での特定（\*2）
- ・溶剤、洗剤の使用量削減（希釈率変更等）

- ・溶剤、洗剤の代替品利用研究
- ・有害性の恐れのある化学物質を含有していないインキの使用

(6) その他の推進活動

- ・環境保全会議(月 1 回)の実施
- ・環境パトロール (月 1 回) の実施
- ・社内報、掲示板、HPを通して環境への配慮を社内外へ啓蒙
- ・環境保全に必要な知識習得のための社内研修会の実施、外部研修会への参加
- ・環境に配慮した改善提案提出を奨励

\*1 P R T R 法

特定化学物質の環境等への排出量の把握等及び管理の改善に関する法律

\*2 M S D S (製品安全データシート)

製造者情報、製品名、物質の特定、危険有害性の分類のほか取扱及び廃棄上の注意点などを記載したデータシート。

6. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

当社は、下記の特設施設を有している。

大気汚染防止法の規定によるもの

特定施設	ボイラー	
排出基準	ばいじん	0.30 g / Nm <sup>3</sup>
	窒素酸化物	180 ppm

騒音規制法及び金沢市環境保全条例(騒音)の規定によるもの

特定施設	送風機、印刷機械	
規制基準	第4種区域(工業地域)	
	昼間(午前8時~午後7時)	70 デシベル
	朝・夕(午前6時~8時、午後7時~10時)	65 デシベル
	夜間(午後10時~翌日の午前6時)	60 デシベル

振動規制法の規定によるもの

特定施設	印刷機械	
規制基準	第2種区域(工業地域)	
	昼間(午前8時~午後7時)	65 デシベル
	夜間(午後7時~翌日の午前8時)	60 デシベル

上記の規制基準を今後とも遵守する。

なお、過去1年間、環境関連法規の違反・訴訟等の事実はありません。

以上